

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特活

目標・人権教育のねらい

- ・「いじめ」について生徒に自分ごととして考えさせる
- ・学校や教職員の「いじめ」を許さないという姿勢を生徒に示す
- ・自身が意図していなくても、相手を傷つけることがあることについて理解する
- ・「いじめ」は人権侵害であることについて共通認識を図ることで、生徒の安心につなげる

実施した内容

- ・いじめアンケートを実施する。その際、他人の回答を覗き込んだり、相談したりすることがないように、安心して回答できる環境を整える
- ・アンケート結果を踏まえ、自分が「いじめ」ではないと思っている行為であっても、心身の苦痛を感じる人がいることに気付かせる。その際、個人が特定されることがないように配慮する
- ・なぜいじめが起きるのか、どうすればいじめが無くなるのかについて考える機会を設ける

工夫した点

- ・生徒一人ひとりの感じ方が違うことについて、教職員から指導するのではなく、生徒が自ら気付くようにした
- ・学校が一人ひとりのことを大切にしているというメッセージを伝えることで、生徒の「自尊感情」を高めるとともに、安心できる環境を醸成した

他教科との
関連

- ・「情報」の中で、ネットリテラシーについて取り扱う際に、適切なネット利用について学ぶ機会を設けた。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

高校 2、3 年生・特活

目標・人権教育のねらい

- ・ 対等な交際とはどういうことかを考える。
- ・ DVは自分の周辺にも起こる可能性があることを知る。
- ・ 対等ではない関係に気付く感覚を身に付ける。
- ・ 自分の周辺で起こった時に、助けたり、助けを求めたりできる知識や態度を身に付ける。

実施した内容

- ・ 自分に交際している生徒がいたらと想像し、複数の質問を提示し、されて「嬉しい」と感じるか「嫌だ」と感じるかについて、各自で考えさせた。
- ・ 各項目について、「嬉しい」と感じた生徒に挙手をさせ、自分とは感じ方の違う人がいることを確認させ、その後、班ごとにそれぞれの項目について、どこで線引きをしたのか、なぜおかしいと思ったかについて協議させた。
- ・ 大阪府が作成しているデートDVに関するリーフレットを活用して、誰にでも起こり得ることを確認し、お互いの人権を守ることの大切さを確認した。

工夫した点

- ・ 一人ひとりの感じ方を大切にするため、手を挙げた人に対して否定的なコメントをしないようクラス全体に注意した。
- ・ デートDVの当事者が学級や学年にいることを前提として展開した。
- ・ 異性の交際関係だけでなく、同性の交際関係もいることを念頭において話をした。
- ・ デートDVの被害者は女子生徒に多いが、男女ともに被害者にも加害者にもなりうることを配慮した。

他教科との
関連

- ・ 「保健」の中で、性行為について取り扱う際に、適切な関係について学ぶ機会を設けた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

高校3年生・特活

目標・人権教育のねらい

- ・ 自分を知り、人には様々な「得意」と「苦手」があることを認識した上で、発達障がいについて、誤った情報や思い込みに基づく偏見や差別が起きないように、基本的な知識を身に付ける。
- ・ 自分の「得意」が他者の役に立つことや、他者の「不得意」をフォローすることができ、お互いの特性を理解して交流すれば、大きな成果を得られることを確認する。

実施した内容

- ・ 自分の得意なことや苦手なことが分かるようなワークシートを配付し、各自で取り組ませた。併せて、自分の「不得意」で失敗したことや人の支援で助かったこと、自分の「得意」が他人の役に立ったことについて各自で取り組ませた。
- ・ 一人ひとりに違いがあり、その違いを認識してどのようなつながっていけばよいかについて、班別で意見交流した。
- ・ 発達障がいについて、教員から解説を行い、どのような配慮が必要なのかについて、生徒同士で協議させた。

工夫した点

- ・ 生徒一人ひとりが自分の特性を客観的に理解していくために、「得意」「不得意」といえるような特質は、誰にでもあることを説明した。
- ・ 発達障がいについて学ぶとともに、「もし自分が発達障がいのある生徒とともに学ぶ場合、お互いにどんな関わりをする必要があるのか」を考えられる姿勢を育てるよう、留意した。
- ・ 府教育庁支援教育課の事業による巡回指導を活用し、発達障がい生徒の個別支援を行った。

他教科との
関連

- ・ 全ての教科において、「得意」「不得意」なことは当たり前であり、お互いに認め合うよう意識付けを行った。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

高校3年生・総合的な探究の時間

目標・人権教育のねらい

- ・就職差別の撤廃と公正採用の実現に向けた取組みの中から、同和問題についての理解を深める。
- ・現在の高卒就職選考における人権に関する配慮の状況を理解する。
- ・かつての選考に関わる差別的な扱いや不公正な選考が広範に存在していた状況を改善するに当たり、その契機となった当時の同和問題の状況と、同和問題の社会的解決に向けた取組みを知る。

実施した内容

- ・実際の求人票を見て、正社員として働くとはどういうことかについて学習した。
- ・「社用紙」を配付し、班で不適切であると感じる部分について話し合わせた。また、なぜ不適切なのかについてもその理由を考えるように促した。
- ・なぜ「社用紙」ができたのか、同和問題を含めその歴史的な経緯について学習した。
- ・統一応募用紙を配付し、「社用紙」から削除された項目について、その理由を考えるように促した。

工夫した点

- ・進学する生徒は関係ないと考えがちなので、自分の将来に関わることであることを強調し、自分ごととして考えるように促した。
- ・自身が不公正な選考を受けた時には、適切に対応できるよう、具体的な事例を挙げながら取組みを行った。

他教科との
関連

- ・「地理歴史・公民科」の近代史の授業等において、同和問題について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・全教科、総合、特活

目標・人権教育のねらい

- ・東淀川高校では平成29年度より「日本語指導が必要な生徒選抜」を実施しており、この選抜により入学した生徒を「くろーばぁ生」という愛称で呼んでいる。「くろーばぁ生」を対象とした「『知・絆・技・夢』を育む教育実践」が、同校の全生徒にとり、多文化共生社会を生き抜く力を育むものになっているかを検証し、日本語指導が必要な生徒に対する指導の在り方を考えるてだてとする。

実施した内容

- 人権学習
- 抽出授業（くろーばぁ生対象）
- 多文化研究部の活動（くろーばぁ生）
- 教職員研修の実施（教職員）

工夫した点

- ・多文化共生の人権意識を高めていく取組みの推進
- ・日本語能力向上の必要性を実感させ、自発的な努力ができるよう支援した。
- ・日本で生活するための知識・技能の獲得と、自らのルーツに誇りを持つ取組みを推進した。
- ・年2回のうち1回は、教職員の多文化共生意識の向上を図る研修を実施した。
- ・総合的な探求の時間、特別活動等により実施。学外連携や体験活動の機会を設けた。

他教科との
関連

- ・全学年が対象。全教科、総合的な探求の時間、特別活動を通して実施。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

高校1年生・特活

目標・人権教育のねらい

- ・具体的なトラブル事例を教材にし、ネットモラルの向上や他者を気遣い優しさが大切であることの再確認、また、ネットに潜む悪意の存在を認識させる。
- ・スマートフォンの長所や短所を理解し、その価値観を共有するとともに、メディアリテラシーを高める。
- ・ネット上でのコミュニケーションの在り方・ネット上の情報への接し方を自分で考える姿勢を育む。

実施した内容

- ・具体的な事例（写真の投稿、SNSでのやりとり）をいくつか挙げ、各自で問題の有無を考えさせた。班ごとにそれぞれの問題の有無とその理由について、討議をさせた。
- ・事例に似たケースや他のことで、嫌な気持ちになったことについて交流させた。
- ・どのようにすれば、お互いに嫌な思いをせずにインターネットと向き合えるかについて意見交換をさせた。

工夫した点

- ・教員はキーワードを拾い上げて、適宜コメントを加えて、板書を行うようにした。
- ・考えがまとまらない生徒についても、なぜそう思うのかについて意見表明ができるように、配慮した。

他教科との
関連

- ・教科情報の「社会と情報」の中でメディアリテラシーについて取り扱った。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題

対象学年・
取り扱った教科等

高校 1 年生・特活

目標・人権教育のねらい

- ・ 拉致問題が人権課題の一つであると認識させるとともに、自らの問題として捉え、解決に向けて 1 人ひとりが考えることの大切さを認識させる。
- ・ 人権の観点から生徒が拉致問題について理解を深めていくことが大切であり、この問題が今後とも風化しないように留意する。

実施した内容

- ・ 拉致問題に関するプリントを配付し、本日のねらいを伝えるとともに、歴史的な経緯について説明を行った。
- ・ アニメ「めぐみ」を視聴させた。
- ・ 視聴後、生徒同士で感じたことを話し合わせ、他人事ではなく、自分の事として考えることで真実が見えてくることについて生徒に伝えた。

工夫した点

- ・ 拉致問題は北朝鮮という国家の犯罪であり、在日韓国・朝鮮人の人々はもとより北朝鮮の国民には責任はないことを伝えた。
- ・ 拉致問題はあくまで人権課題の一つであり、政治的、政策的なことには触れないようにした。

他教科との
関連

- ・ 「地理歴史・公民科」の教科指導において、拉致問題を取り扱っている。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

大阪府 東淀川高等学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特活

目標・人権教育のねらい

- ・多様な「性」の在り方について理解を深め、学校行事における「女装」「男装」の問題点を考え、性的マイノリティへの人権侵害になることを理解する。
- ・生徒一人ひとりが自分の「性」を考えることが、自らの人権を大切にすることにつながる意識を持たせる。

実施した内容

- ・文化祭を通じて女装や男装の是非について生徒に考えさせたり、性的表現や性的なことに繋がる表現について考えさせた。
- ・「性」の在り方は多様であることに気付かせ、女装や男装をして「笑い」をとることは、「性」の在り方を固定化し、その多様性を否定することにつながることを理解させた。

工夫した点

- ・目的や意図によっては、他者の人権を侵害する恐れがあることに生徒自身について生徒同士で話し合わせた。
- ・当事者の生徒がいることに配慮した。
- ・「性」の多様な在り方を大切にすることは、自分自身を大切にすることであり、「性」は差別されたり嘲笑されたりするものではないことを強調した。

他教科との
関連

- ・家庭科「家庭総合」において多様な性について取り扱った。